

八潮駅への東京外環自動車道以北地域と通称青葉通りのバス路線導入について

Q 八潮駅への東京外環自動車道以北地域と通称青葉通りのバス路線導入について、お伺いします。

A 東京外環自動車道以北地域につきましては、現在、バス路線がなく、交通の不便な地域であるとの認識をしております。バス事業者に対しまして、毎年草加駅へと結ぶ路線や、当地域を經由して松原団地駅へと結ぶ路線の新設を要望してまいりました。また、青葉通りのバス路線導入につきましても、同様に毎年バス事業者に路線の新設を要望してまいりました。

戸川須美子

しかしながら、これまでのところ採算性などの点から、いずれの路線も実現が図られていない状況でございます。

八潮駅へと結ぶ路線につきましては、現在検討しております。バス路線網の見直しの中で、どのような条件を整えば導入可能となるか、さらに検討を進め、地域住民の利便性向上のため、実現を図ってまいりたいと存じます。

『障害児訓練施設の充実を』

Q 心身の発達に障害又は遅れのある幼児が保護者と通

所し、保育士や専門職による日常生活に必要な基本動作の指導・訓練を感覚運動遊び等の内容を通して行っています。

現在、南川崎の「のぞみ」で実施、最近通所希望者が多く、一部に通所できない待機児童がいます。一日も早く希望者全員が通所できるように。

A 保健センターでの健診・相談の結果により、発達の遅れ等が疑われその後「のぞみ」を紹介され、幼児が保護者と申し込み、通所により療育の支援



広沢 昇

を受けます。現在6名の通所出来ない幼児がいますので、今後は、月1回利用コースの開催など、新年度からの受入人数の拡大について検討します。

葛西用水路の整備について

Q 葛西用水路は、水害から市民を守りつつ、市民に潤いと安らぎを与えてくれるものと思っております。葛西用水路の整備の現状と今後の取組についてお伺いします。

A 葛西用水路の整備については、下流部分(南部西地区の調整池に接する場所)より平成13年度には約70メートル、平成14年度は約120メートル更に平成15年度は約112メートルと進めております。今後は順次上流部へ進めてまいります。将来的には、緑道や遊歩道として整備し、水と緑のネットワーク

小倉 孝義

の形成を図ってまいります。また、上流部においては、試験的に大原橋から上流部へ向け約400メートルの区間につき用水の中央部分を掘り下げ、その土砂を護岸の両側に盛り上げ水路を確保する整形工事を発注したところでございます。

このことによりまして、用水の維持管理が容易になるとともに用水の流れが良くなり、植物の繁茂が抑制されることを期待しているところでございますのでご理解を賜りたいと存じます。

合併特例法の期限に向け公共の利益と民意を重視した合併の推進について

Q 地方分権の受け皿として適正規模の自主・自立した自治体構築のため、合併特例法のもと全国の約55パーセント1761市町村が法定合併協議会を設置し、合併について協議・推進しております。平成17年3月末の合併特例法失効期限の前

と後では数百億に及ぶ経済効果や待遇等に大きな違いがあり、本市の合併に対するアンケート結果でも、約60パーセントが合併に賛成的で、その中の約44パーセントが草加市との枠組みを選択しており、つづく5市1町での枠組み約28パーセントを大きく離しております。よって、

森 伸一

この民意を反映し、最優先として草加市との合併を検討・推進すべきと考えますがいかがでしょうか。

A 合併するとした場合の組合せとして草加市を選択された方の割合が最も多いことは事実ですが、それ以外の多くの方がある他の組合せが良いと選択されておりまして、現段階におきまして、草加市との合併に限定して検討を進めることは市民の皆様の意向を必ずしも踏まえたものでないと判断しております。

平成16年度予算編成について

Q 限られた財源の中、多田市長は、平成16年度の予算編成(品格ある行政運営)をどの様に行っていくのか。

A 平成16年度の主な重要事業として、平成17年度秋のつくばエクスプレス開業に向け、八潮駅周辺整備とアクセス道路の築造などに積極的に取り組みます。また、平成16年10月に開催される埼玉国体では、八潮市がハンドボール競技のメイン会場となり、全国から大勢の選手役員が来られるので市の各種団体の皆様をはじめ市民ボランティアの皆様と協働して、成功す

柳澤 功一

るよう努力してまいります。次に、少子高齢化社会に対応するため、八潮市乳幼児医療費支給条例を一部改正し、通院等に係る年齢の引き上げ、自己負担の廃止、支給方法の変更等を実施するほか、学童保育所等の整備も図ってまいります。

さらに、市民サービス向上対策や新消防庁舎の建設に向け検討を進めます。いずれにしても厳しい財政状況にあるので、真に必要な事業を厳選して執行してまいります。

乳がん検診について

Q 女性の30人に1人が、乳がんにかかるといわれています。予防法はなく、早期発見

早期治療が最善の方法です。検診の回数増と啓発について伺います。

A 今年の受診者数は対象者の1・4パーセントの259名で、うち3名の方が乳がんまたはその疑いと判定されました。50歳以上の希望者と30歳以上で医師の指示があった方に、マンモグラフィと呼ばれる乳房エックス線検査を実施しています。本年度は定員を超える申込者があったことから、今後は申し込み状況に応じて実施回数

矢澤江美子

を増やすよう検討しています。啓発については広報掲載や健康だよりの配布、チラシの配布など行っていますが、啓発方法を検討し、自己検査法の伝達や検診への受診勧奨に努めてまいります。来年度は、国の『第3次対がん10カ年総合戦略』の開始年度にあたるので、がん検診についての指針等が示されるものと思われましますので、対象年齢実施方法等について、これらの動向を見極めていきたいと考えています。